

關東上陸地支局

昭和二十一年二月二十日

史実調査参考資料報告

摘要

所在地

神奈縣宮古島

職業

陸軍少佐

終戰時年月日

所属部隊

第三支那團金剛

氏名

記入

支那事変
以降於九
自己略丁

記入

所在部隊

正兵三十三年

主な参戦
斗名記入編成年月日
備考欄

及編制表

編成年月日
備考欄

記入

所属部隊
所屬部隊
作戰經過
概要

昭和十九年八月廿四日正兵三十三年

主な参戦
斗名記入

記入

終戰(文六主力)
戰鬥終了後
情況

昭和十九年八月廿四日正兵三十三年

主な参戦
斗名記入

記入

備考
其他参考項
終戰(文六主力)
戰鬥終了後
情況

昭和十九年八月廿四日正兵三十三年

主な参戦
斗名記入

記入

備考
終戰(文六主力)
戰鬥終了後
情況

昭和十九年八月廿四日正兵三十三年

主な参戦
斗名記入

記入

關東上陸地支文局

昭和二年五月

八日

文庚調查參考資料報告

摘要

所屬部隊
全右衛門地
沖繩守古島八名職官小隊長中
乙略丁

支那事變以降於川自己略丁

昭和五年八月三十一日
昭和十五年九月五日參加

昭和五年八月三十日支那事變參加

昭和十五年九月五日支那事變參加

昭和五年八月三十日支那事變參加

昭和十五年九月五日支那事變參加

所屬部隊編成年月日及編制裝備概要

昭和五年八月三十日

38

1238

歸還輸送
備記入最級所屬
部隊之主
三尚少
以不所屬
部隊之令
天標記入加戰鬥參
記入

附表 第三

關東上陸地支局

昭和 年 月 日

史實調查參考資料報告

所屬部隊
(固有名)

工兵第三十一大隊

職官 氏名

陸軍大尉

終戰時ノセノヲ
記ス

全右所在地

沖繩縣宮古島

職官

陸軍大尉附

終戰時ノセノヲ
記ス支那事變以降ニ
於ケル自己ソ略歴

昭和十六年七月十四日 関東軍特別演習白三ヨリ
 瑞洲國八呂ニ工兵第三十大隊二名集、小隊長、
 昭和十九年三月中隊長代理、同年六月三日節度
 不令、今年八月十六日宮古島上陸、今月十八日
 司令官紫城班勤務、今年十二月復帰本部附無器掛

所在部隊ノ編成
年月日及編制裝備ノ概要

昭和十五年八月編成、
 聯隊本部、一、二、三中隊、第百四隊、

告白

昭和十九年八月宮古島上陸、今島警備、
 天一号作戦、傷力

所屬部隊作戰經過ノ概要

昭和十九年八月宮古島上陸、今島警備、
 天一号作戦、傷力

最後ノ所屬部隊
ノ主ニシ尙シノ
以前ノ所屬部隊
ノ分ヲモ概記ス

72

備考	歸鄉(又ハ連絡)	先	其ノ他ノ参考事項
將校ニ記載セシメ第一復員省史實部ニ送付ス			

關東上陸地支局

昭和年月日

摘要

史實調査参考資料報告

所屬部隊(固有名)

工兵第三十八聯隊

職官

中隊附
陸軍中尉終戰時ノモノヲ
記ス

全右所在地

宮十四鳥

氏名

陸軍中尉

213

支那事變以降ニ
於ケル自己ノ略1. 昭和十九年四月二十日工兵第三十八聯隊附
2. 同年十七月一日陸軍少尉

3. 同年七月二十日金山出發八月十二日返島上陸

4. 昭和二十年六月十日陸軍中尉

職ノ變更及主ナ
ル參加戰鬪名ヲ
記ス

歷

5. 終戦ニイタル

所在部隊ノ編成
年月日及編制裝備ノ概要編成年月日
昭和十五年八月十五日

備

所屬部隊作戰經過ノ概要

昭和十六年度動員計畫ニ基ツク

記ス

所屬部隊作戰經過ノ概要

師團工兵

備

昭和十九年八月宮古島上陸同島警備
天一号作戰參加

記ス

終戰(又ハ主力
ノ戰闘終了)1. 終戦後八五ドシニ現地自活、任治安維持
2. 住ジアリキ

備

後ノ概況

昭和二十一年十二月二下日ケナルヨチニテ宮古島沖陥

記ス

終戰(又ハ主力
ノ戰闘終了)

昭和二十一年三月二十三日同船ニテ沖縄獲

備

先

七四

記ス

歸郷(又ハ連絡)

ナ

記ス

其ノ他ノ参考事項

ナ

記ス

備考

將校ニ記載セシメ第一復員省史實部ニ送付ス

記ス

關東上陸地支局 昭和 年 月 日

史實調查參考資料報告

所屬部隊(固有名)	工兵第三十八聯隊	職官	中隊附 陸軍中尉	終戰時ノモノヲ 記ス
全右所在地	支那事變以降ニ 於ケル自己ノ略	履歴	昭和十五年八月 支那事變以降ニ於ケル自己ノ略	職ノ變更及主ナ ル參加戰鬪名ヲ 記ス
所在部隊ノ編成	昭和十五年八月 支那事變以降ニ於ケル自己ノ略	年月日及編制裝備ノ概要	昭和十五年八月 支那事變以降ニ於ケル自己ノ略	摘要
所屬部隊作戰經過ノ概要	昭和十五年八月 支那事變以降ニ於ケル自己ノ略	最後ノ所屬部隊 ヲ主ニシ尙ソノ 以前ノ所屬部隊 ノ分ヲ概記ス	昭和十五年八月 支那事變以降ニ於ケル自己ノ略	要

備考	將校ニ記載セシメ第一復員省史實部ニ送付ス	歸還輸送ノ狀況 ヲモ併記ス	終戰(又ハ主力 ノ戰闘終了) 後ノ概況	終戰(又ハ主力 ノ戰闘終了) 後ノ概況
歸鄉(又ハ連絡)先	支那事變以降ニ於ケル自己ノ略	支那事變以降ニ於ケル自己ノ略	支那事變以降ニ於ケル自己ノ略	支那事變以降ニ於ケル自己ノ略
其ノ他ノ参考事項	支那事變以降ニ於ケル自己ノ略	支那事變以降ニ於ケル自己ノ略	支那事變以降ニ於ケル自己ノ略	支那事變以降ニ於ケル自己ノ略
備考	支那事變以降ニ於ケル自己ノ略	支那事變以降ニ於ケル自己ノ略	支那事變以降ニ於ケル自己ノ略	支那事變以降ニ於ケル自己ノ略

附表第三

關東上陸地支局 昭和年月日

史實調査参考資料報告

所屬部隊
(固有名)

工兵第三大聯隊

職官 氏名

聯隊本部附
陸軍軍医大尉終戰時モノヲ
記ス支那事變以降ニ
於ケル自己ノ略

歷

昭和十七年十月二十日
陸軍軍医大尉
同日第六軍司令官
陸軍軍医中尉
昭和十八年四月十四日
陸軍軍医少尉
同日第六軍司令官
陸軍軍医中尉
昭和十九年三月一日
陸軍軍医中尉
同日第七十八聯隊二
陸軍軍医中尉
昭和二十一年八月二十日
陸軍軍医大尉

所在部隊ノ編成
年月日及編制裝備ノ概要

昭和十五年八月編成

聯隊本部一、二、三中隊番号大隊

過ノ概要

昭和十九年八月宮古島上陸 同島警備
昭和十六年度就業計画其ノ師団工兵第

以前ノ所屬部隊
ノ主ニシ尙ソノ
ノ分ノモ概記ス

最後ノ所屬部隊

所屬部隊作戰經

昭和十九年八月宮古島上陸 同島警備

終戰(又ハ主力
ノ戰闘終了)
後ノ概況

官方島治官浦村、現地自活
昭和二十一年十二月二十日同島出發
同月二十三日
同船に依り那覇到着
同年三月二十七日
油賀上陸

歸還輸送ノ狀況
ヲモ併記ス

備考	其ノ他ノ参考事項	歸鄉(又ハ連絡)	先
將校ニ記載セシメ第一復員省史實部ニ送付ス			

附表第三

關東上陸地支局

昭和
年
月

史實調查參考資料報告

所屬
部隊
有名

沖繩縣宮古島

氏職
官

中務長
陸大尉

記ス

支那事變以降

同上
丁巳年正月廿二日
歲次癸卯年正月廿二日
歲次癸卯年正月廿二日

職ノ變更及主力
ル參加戰鬪名ヲ

月有音附一編用
備ノ概要

編成
聯隊本部

新編郡家三載記

用不
人
官市易局工謹

三

卷之三

（戰鬪終了）

昭和二年正月六日同易峰、楊公、小川、喜多、源
洋離馬場。昭和二年三月七日同陽、張、川原、霸
東、肇、同、三月七日由酒井月堂達。

先

THE JOURNAL OF CLIMATE

項備者

易林一詩集

關東上陸地支局

昭和十五年一月一日

史實調査参考資料報告

摘要

所屬部隊
(固有名)

工兵第二十八聯隊

職官

陸軍少尉

/件

終戰時ノモノヲ
記ス

全右所在地

沖繩縣宮古島

氏名

[REDACTED]

[REDACTED]

終戰時ノモノヲ
記ス支那事變以降ニ
於ケル自己ノ略歴

昭和十七年十二月十五日 工兵第二十八聯隊入隊

" 年一月十日 任少尉

所在部隊ノ編成
年月日及編制裝備ノ概要昭和十五年八月編成
聯隊本部 一二三中隊 稲林小隊

所屬部隊作戰經過ノ概要

昭和十九年八月 宮古島上陸今島警備

最後ノ所屬部隊
ヲ主ニシ尙ソノ以前ノ所屬部隊
ノ分ヲモ概記ス終戰(又ハ主力
ノ戰闘終了)
後ノ概況宮古島治安維持 現地自活
昭和二十一年十二月二十日 同島登米船ケヤク當番
沖繩島移動 三十一年三月二十三日 同船三係り
那霸港発 同月三十七日 楠賀上陸歸還輸送ノ狀況
ヲモ併記ス

備考	其ノ他ノ参考事項	歸鄉(又ハ連絡) 先
將校ニ記載セシメ第一復員省史實部ニ送付ス		[REDACTED]